

令和 2 年度の活動報告

1. はじめに

北方海域技術研究委員会は、北の海のネットワークづくりを主眼におき、「北の海の持続的な開発を進めるための環境の保全と創造に努め、海域を取り巻く諸問題について調査研究を行い、議論を行う中から各方面への提言を行い、具現化を図ること」を目的とした研究グループです。

近年では、北海道周辺海域も地球温暖化に伴う影響から、海水温及び海面の上昇、海洋生物の生息域や資源量の変化、漁村における施設の老朽化対策、漁港活性化、海洋調査や ICT 技術の動向を受け、海洋環境変化と社会的要請に応じながら、主たる研究テーマを設定し、産官学の連携によるネットワークを形成し、情報を発信する活動しております。

2. 令和 2 年度の活動報告

令和 2 年度は、新型コロナウイルスによる活動の自粛から、これまで年 4 回開催していた講演会が 1 回、幹事会も 4 回の開催となりました。

総会についても、対面での決議を中止し、メール審議により実施いたしました。

講演会は、対面形式からオンライン開催として 2 名の講師をお招きし、北方海域に係る話題の提供を頂きました。質疑は講演後に集計・回答を行い、有意義な会を開催することが出来ました。

次に令和 2 年度の活動概要をご紹介します。

表-1 令和 2 年度の講演会等の活動状況

R2.7.17	令和 2 年度 総会 会 場：メール審議 参加者：技術士会員 28 名、非会員 23 名
R2.12.21	令和 2 年度 講演会 会 場：オンライン開催 参加者：技術士会員 23 名、非会員 27 名

3. 講演会

講演会では、講演 1「水産基盤整備事業の動向」と、講演 2「官学民を経た四生目老技術者の初心」の 2 件についてご講演を頂きました。以下にその内容を報告します。

(1) 講演 1：「水産基盤整備事業の動向」

講演 1 は北海道開発局 農業水産部 水産課 課長の横山純氏を迎え、漁港漁場に関する次期計画事業の動向についてご講演頂きました。

はじめに、現在の漁港漁場整備長期計画 (H29 ～ R3) の重点課題と実施目標、その成果と進捗について触れ、公表された水産政策の改革に基づき、近年における整備の情勢を踏まえ、6 つのテーマについて検討を進め、現状の課題から次期長期計画の方向性と検討課題を説明されました。

テーマ別では「漁場整備・環境変化への対応」として海洋環境の変化、養殖生産拠点、漁場利用の高度化に着目し、日本沿岸の海水温変化による漁獲量の変化や自然災害激甚化に伴う漁場・養殖場の脅威に対する今後の検討課題や対応事例について説明されました。養殖生産拠点、漁場利用の高度化については、養殖業をマーケット・イン型に転換することで養殖生産物の計画的な生産を行うこと、漁海況予測情報の収集強化・精度向上のための海洋観測網の構築や ICT ブイによる漁場環境情報の養殖業の高度化を図ることを説明されました。

「直轄漁港漁場事業の展開」として、フロンティア漁場整備の拡充を図り、排他的経済水域における水産資源の基礎生産力の向上、「拠点漁港等の競争力強化」については輸出促進と荷捌き・保管機能の強化、高度な衛生管理に対応した荷捌き所を整備することを説明されました。

「漁村活性化」として漁村交流や機能の高度化、活用エリアを活かした海業の推進や事例を紹介頂きました。「持続可能なインフラ管理」では施設の老朽化対策として機能保全計画によるメンテナンスサイクルの確立、新技術導入による効率化・省力化の推進、「防災・減災対策」では南海トラフ地震や自然災害の激甚化を見据え、拠点漁港の防災力強化、災害に対する備えや初動体制、気候変動に対する設計・計画の見直しなどを述べられ、ご講演を締められました。



写真-1 講演を行う横山純講師

講演 2：「官学民を経た四生目老技術者の初心」

講演 2 は、公立はこだて未来大学名誉教授で長野漁港技術事務所代表の長野章氏を迎え、長年携わった水産行政、大学での研究、民間による新技術などの話題、四生目に向けた老年の初心についてご講演頂きました。

長野講師の経歴は、官(水産庁・長崎県・開発局：33年)、学(公立はこだて未来大学：8年)、民((一社)全日本漁港建設協会：9年)と半世紀にわたり勤務し、この間に資格の勤めとして当研究員会の大半が指導を受けた技術士取得や学位(博士)の指導、平成29年春には叙勲にて瑞宝中綬章も受賞されています。

一生目である「官」では水産庁時代の話題として、日本海中部地震、長崎県台風災害、北海道南西沖地震による被害からの復興について触れ、青苗漁港の復興計画である人工地盤について説明されました。

また、従来の漁港法から漁港、漁場、漁村を一体的に整備するための漁港漁場整備法の制定について説明されました。

二生目である「学」では北海道マリンビジョンの策定、ITを利用した水産物の付加価値を付けるトレーサビリティシステム、漁港で排出されるCO2の削減に向けた産業関連表と評価方法について述べられました。

三生目の「民」では東日本大震災の復興と復旧支援システムの構築、漁港建設業界の活性化を軸に将来のビジョンとして、水産物の計画的生産(増養殖業)の事例を交え、説明されました。

最後に四生目となる現在、更なる水産業の活性化として新技術の取り入れと継続の提案、独立開業までの試み、海外技術協力への挑戦を述べられました。また、老年の初心として、「共同体の必要性」について持論を展開し、共同体での「蓄積、行動実践、伝える」ことが、趣味である剣道にも通じ、これを心構えとしていくことを述べ、ご講演を締められました。



写真-2 講演を行う長野章講師

4. おわりに

令和3年度においても例年通りの講演会を開催することが難しく、会員の皆様においては大変ご迷惑をおかけしております。

今後とも公共に貢献できる科学技術の創造のため、活動を継続して参ります。引き続き当研究委員会へのご協力をお願い申し上げます。